



はまとん魅力発見プログラム

～つながる町づくり、人づくり～

2009



報道関係者各位

2009年5月8日

5月18日(月)

CASE1～stage2～学生実行委員会

東大生、北海道浜頓別町にて高校生とのワークショップを開催！

CASE1～stage2～学生実行委員会は、2009年8月4日～9日に北海道浜頓別町で大学生と高校生の「交流」を軸とした地域活性化イベント「はまとん魅力発見プログラム2009」を行います



CASE*は2008年9月に、“クッチャロ湖（北海道浜頓別町）”において、全国の学生・地元の住民約200名を巻き込んで「CASE1 クッチャロ学生環境サミット」を開催しました。

本企画は、CASE1の継続事業としてCASE1で提案されたアイデアを北海道浜頓別町において、実行するものです。具体的には、次世代を担う高校生が、都会の大学に通う大学生との交流により、自らの町の自然環境や産業の独自性を知り、自然環境と調和した町づくりを考えていくきっかけを提供することを目指しています。そして、2009年8月4日～9日に「はまとん魅力発見プログラム」

と題して東京からの15名程度の大学生を参加者とし、高校生との「交流」イベントを実施いたします。

8月の企画に先立ち、高校の先生方のご協力の下、5月18日(月)1530～1800、浜頓別高校にて『町の模型』を用いたワークショップを開催いたします。

ワークショップでは、浜頓別町市街地2000分の1現況模型を使い、高校生20名、東大生5名ほどで浜頓別町の現在の姿と将来のあるべき姿を探っていきます。高校生がチームに分かれ、町の、親しい人との『デートコース』または、観光客のための『ガイドコース』を考案します。

町の模型を用いながら、具体的なコースを考えていく中で、高校生に町の現状や魅力について再認識し、町に関心をもつきっかけとすることが目的です。

6月、7月にも大学生が町を訪問し、高校生との勉強会を実施しながら、8月の企画の準備を行っていく予定です。

*CASE：「人と地球のつきあい方」を理念として掲げ、「水資源とワイズユース」をテーマに、自然や地元の人々とふれ合いながら、環境の保全と地域の活性化を両立させるアイデアを創出することを目的として、全国のラムサール条約締結湿地にてイベントを開催している団体です。また、CASE1～stage2～学生実行委員会は東京大学の環境サークル環境三四郎のメンバーが主となり活動しています。

この件に関するお問い合わせ先

CASE1～stage2～学生実行委員会 小川拓哉(東大修士2年)までお願いいたします。

〒113-8654 文京区本郷7-3-1 東京大学 第二食堂

E-mail:info@sanshiro.ne.jp

企画の詳細は <http://www.sanshiro.ne.jp/hamaton> にもUPされております。